特定非営利活動法人
シビルNPO連携プラットフォーム

# CNCP通信 Vol 49

平成 30 年 5 月 8 日発行

●CNCP はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です●

シリーズ「土木ということば」

## 第 1 回「土木」の伝来

日本で初めて「土木」が使われたのは、『日本後紀』延暦十四年（７９５年）九月十五日「己酉。詔曰。眞教有屬、隆其業者人王。法相無辺、闡其要者佛子。朕位膺四大、情存億兆。導徳齊禮、雖遵有國之規、妙果勝因、思弘無上之道。是以、披山水名区、草創禪院。盡土木妙製、莊銛伽藍。名曰梵釋寺。仍置清行禪師十人、三綱在其中。」であり、現代語訳は「十五日。〔桓武〕天皇が次のように詔りした。真実の教えである仏教には支えとなるものが伴うもので、それを興隆するのは国王である。万物の相状についての仏教の教えには限りがなく、その要諦を明らかにするのは僧侶である。朕は天下を治め、多くの民に思いを馳せ、徳と礼で導き整え、治国の規範に従ってきているが、さらに仏の果法とよき因縁を示しているところのこのうえなく勝れている仏教の教えを広めようと思っている。そこで、景勝の地を開いて仏寺を創建し、土木の妙を尽くして伽藍の装飾を行い、寺名を梵釈寺とし、清行の禅師（禅行に通じた僧侶）十人を置き、寺役人である三剛は禅師の中から任ずることにした。」である。平安京遷都の翌年であり、五月には正殿である太極殿が落成している。中国、朝鮮との交流から、渡来した人々とともに漢字、漢語、仏教、文物、造作・造営の技術が伝来し、『日本書紀（７２０年成立）』のころから国史を漢文体で記すようになった。「土木」は造作・造営のわざという意味で使われている。

森田悌：日本後紀（上）全現代語訳、講談社学術文庫、2006 年

（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

## Vol.49 コンテンツ


| | | | |
|---|---|---|---|
| 巻頭言 | “元気の交換”ー東京の人たちがやって来たー | 大田 弘 | 2 |
| コラム | 再生可能エネルギーと送電線 | 山岡 和彦 | 3 |
| 明治 150 年企画（9） | 明治 150 年に思うこと　産官学民について | 駒田 智久 | 4 |
| 部門活動紹介 | 人を繋ぎコミュニティを創る『協働コーディネーター』 | 岡野 登美子 | 6 |
| シドニー視察旅行記（6）～シドニー・ハーバーブリッジ | | 岩佐　宏一 | 8 |
| 会員からの投稿 | 道路構造物の安全をめざして | 大田 孝二 | 10 |
| サポーターからの投稿 | 土木業界に飛び込んでの気づき | 河内山 聡 | 11 |
| イベント案内 | 第２回 CNCP サロンのご案内 | | 12 |
| 事務局通信 | | | 13 |